

津波警報の対応に関するアンケート報告

鴨川市介護サービス事業所協議会

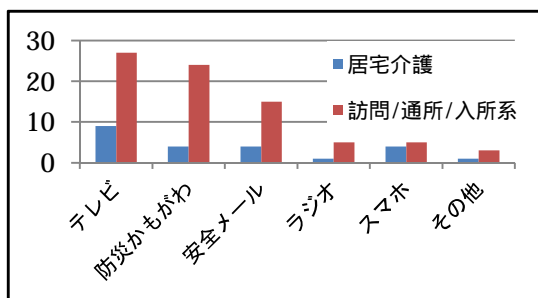
1. 実施方法 インターネットにて令和7年10月24日～31日に実施

2. 対象者 市内介護サービス事業所等全事業所 回答数 64 事業所

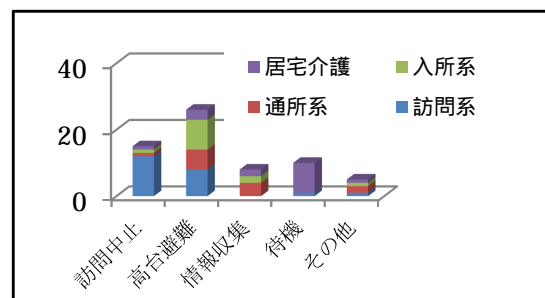
3. アンケート回答

訪問系	22
通所系	13
入所系	13
居宅介護	16
計	64

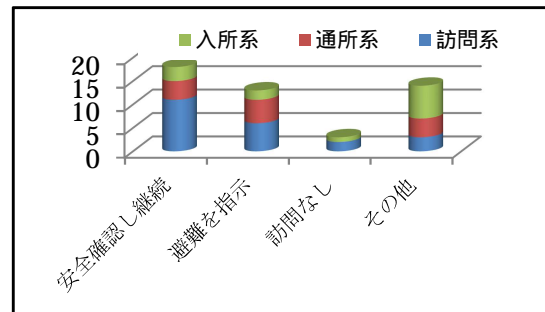
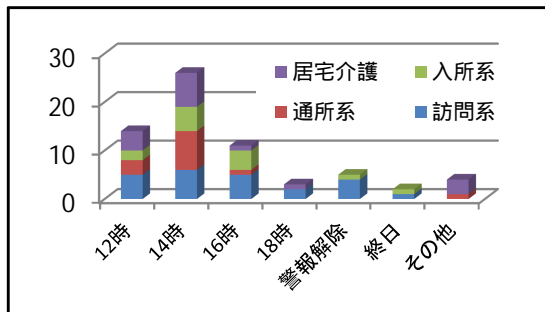
警報を知りましたか（複数回答）



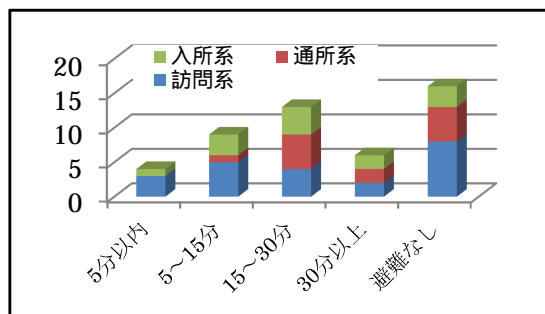
警報後の対応は



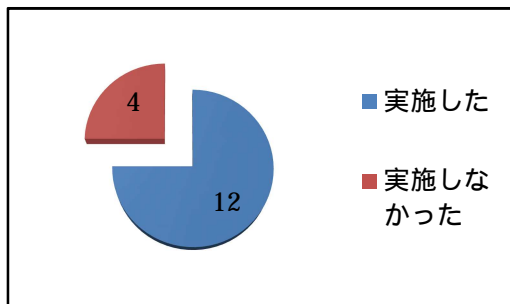
何時頃まで対応しましたか？（居宅除く） 訪問や送迎中の対応は？（居宅除く）



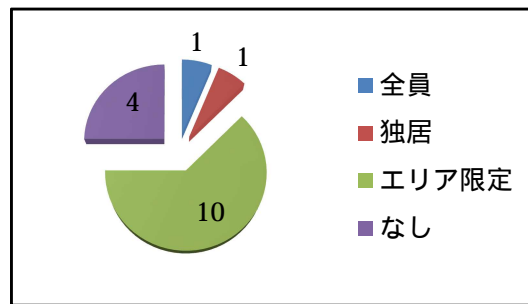
避難の場合の時間は（居宅除く）



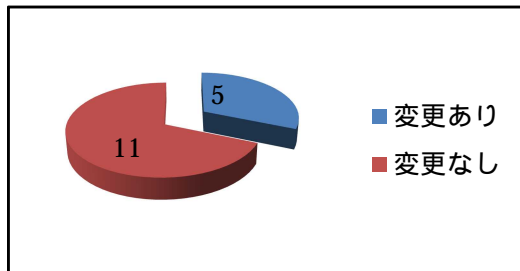
-1 安否確認の実施（居宅のみ）



-2 安否確認の範囲（居宅のみ）



-3 ケアプランの変更は？（居宅のみ）



変更の内容

- ・ ヘルパー中止
- ・ 営業時間変更、休業
- ・ 避難のためヘルパー中止
- ・ 閉店による買い物支援の変更

-4 介護サービス事業所からの連絡（居宅のみ）

- ・ デイサービスから避難の連絡
- ・ 警報発令中で利用者を帰宅させてもいいか
- ・ 買い物代行困難について問い合わせ
- ・ 沿岸地域の利用者のサービス時間の変更
- ・ 通所系は短時間利用、訪問系は利用中止

対応に悩んだこと 【訪問系サービス】

利用者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 海の近くのご利用者は避難を確認した ・ 1人の利用者を避難所に送っていたので夕方まで送り届けた。 ・ デイの利用者の帰宅後の安否確認/デイの利用者を帰していいのか？ ・ 避難した利用者をいつまで避難所にいさせるか。 ・ 重度者や認知症の人の避難継続が良いのか分からない。長時間は困難。 ・ 海岸部の利用者で緊急連絡がきたらどうするか悩んだ。
事業所の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務の連携・避難場所の確認 ・ 翌日早朝業務の訪問を悩んだ。警報中の訪問は不可として対応 ・ 平常業務に戻すタイミング ・ 警報が継続しいつまで訪問中止を続けるべきか ・ 警報発令中は訪問を控えた。警報と注意報が判断の分かれ目。 ・ 沿岸部の訪問中止で大丈夫なのか？判断に困った。 ・ 警報、注意報の危険度の違いによる継続の判断 ・ 管理者をどのように避難させるべきか。 ・ 利用者、職員の安全を考えるとサービスの中断がベスト。 ・ 避難を継続するべきか？また、通常に戻す事への不安が生じた。 ・ 津波到達予報時刻を確認しながら沿岸部以外の訪問は継続した。 ・ 何度も職場の仲間で確認し自己判断で退社の結論に至った。 ・ 注意報となり営業再開。鴨川市の解除を待たずに行動した事が不安。 ・ 利用者さんやケアマネも中止する事を理解してくれた ・ すぐに避難すべきか悩んだ

対応に悩んだこと 【通所系サービス】

利用者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理解力の低い利用者の避難の説明など対応に困難を要した。 ・ 警報解除しないため家族連絡し送迎時間を遅くした ・ 津波が来た場合、利用者は避難所にどのように移動すれば良いか。 ・ 帰宅送迎の時間をどうするか、いつまで避難所で対応するか ・ 警報中、利用者を帰宅させていいか判断に迷った
事業所の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難をすべきかどうか。 / ・ 避難をやめるタイミングがわからなかった。 ・ 利用者を帰宅させたこと。 / ・ 沿岸部利用者の送迎 ・ 津波の心配のないデイなので通常通り

対応に悩んだこと 【入所施設】

利用者への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院で空床なく重症度も高い方ではなかったのでお断りした ・ 場所は提供できるが入院は時間が必要。移動手段が確保できなかった。 ・ 海岸付近のデイケア利用者はレスパイト入院を打診した。 ・ 垂直避難のため居室待機いただいた。備蓄品は最上階に移動した。 ・ 重度介護者が避難を継続するのが良いのか分からない。また、認知症の方なども長時間の避難は困難 ・ 16 時の時点で、テレビ等の情報で解除した。
事業所の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難先から施設にいつ戻るべきか。 ・ 津波避難ビルに指定されており、近隣住民が避難してきた。警報が解除されない場合、食事や仮眠場所などどこまで対応すべきか。 ・ テレビやラジオの情報から「安全である」と素人ながら思ったが、警報解除まで思った以上の時間がかかったと思う。 ・ 公共交通機関、タクシー全ての移動手段がなくなってしまった。 ・ 職員の退勤時刻について ・ 当施設 BCP では大津波警報発令を避難開始基準としており、今回は情報収集に徹し、いつでも対応できる体制で準備していた。

津波対応の課題【訪問系サービス】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 津波が来た後にどれだけ速やかに再開ができるか。 ・ 訪問が多いので対応方法を決めておく必要がある。 ・ 危険な地域なのか把握できていない。 / ・ 訪問再開の判断基準。 ・ 避難や訪問再開のタイミング。 / ・ 過敏に反応しすぎてきている傾向。 ・ 海岸近くの訪問は控えた。長時間で最後に緊張感がなくなった。 ・ 避難所は数人しかおらず暑い中で時間も未定なので、お茶の一本も出してほしかった。夢中で避難すれば水分を持たない事もある。 ・ スタッフへの指示・共有方法の再確認、ケアマネや利用者等への連絡など。 ・ 警報発令時に沿岸部以外に避難者があり混雑。安全な地域への避難経路の確認。 ・ 警報発令された時に通常業務に戻す判断（第一波が数十センチ程度であれば通常業務に戻していいのか？） ・ 警報が発令された場合、利用者の希望（避難場所、移動手段など）を確認しケアマネや関係機関と情報共有する ・ 事業所により差が大きい？通常、縮小中止が、他事業所にはわからないこと。 ・ 管理者不在時の指示系統 / ・ 速やかな情報の整理、判断、迅速な初動対応 ・ 安全確認と曜日変更等の連絡が利用者と取れない。対応方法を話し合った。 ・ 訪問予定の利用者の安否確認は行えたが、全利用者の安否確認が行えなかった。 ・ 避難指示を知ったのは入浴介助後だった。（各家庭に防災無線を入れるとか...） ・ デイ併設のためデイ利用者が避難優先、他事業の利用者の安否確認が遅くなる。 ・ 避難の判断基準を作らなければいけない。 ・ 利用者への支援と、訪問予定の利用者の安否確認をどう両立させるか。 ・ 職員避難の判断（本社に指示を仰ぐのか等） / ・ 海岸沿いの地域の判断基準。 ・ 外部避難者の身元を把握するべきだった。 ・ サービス中断や管理者の避難など他事業所を参考にしていきたい。
津波対応の課題【通所系サービス】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 営業中止等の判断。 / ・ 過敏に反応しすぎている。 ・ 警報発令時の営業判断。早く通常体制に戻した場合、家族などの批判を浴びないのか ・ 認知症の方の避難所の過ごし方。地域住民との同部屋での過ごし方の難しさ。 ・ 津波の高さにより避難場所を変えること。 ・ 津波の危険性が高い場所に住んでいる利用者の対応。 ・ 警報が夜間まで続いた場合の対応 / ・ 避難の判断基準を作らなければいけない。 ・ 避難所がバリアフリーでなくベッドが足りずオムツ交換も苦慮した
津波対応の課題【入所施設】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 外部からの避難者を把握するべきだった。 / ・ 津波の高さで建物外へ避難する場合 ・ 避難誘導する際、職員 1～2 名の出勤でエレベーター使用不可について検討する必要。 ・ 津波避難ビルの対応方法の検討が必要。 ・ 実習中に災害発生した際の対応。 / ・ 情報収集により早急な避難へとつなげたい。
津波対応の課題【居宅介護】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 沿岸部は高台が少なく避難先の案内に悩んだ。避難誘導が困難。（独居、高齢者世帯） ・ 警報解除まで避難を続けるのかの判断が難しい。 / ・ 状況把握できなかった。 ・ 訪問中の避難や帰所させる判断が課題。通所等では避難し大変だったと思う。 ・ 各事業所の対応について確認が必要で集約された情報が発信されず情報収集が必要となる。対応のアンケートは迅速に行う必要性がある ・ 情報の集約化。 / ・ 情報の集め方と伝え方。 / ・ 津波警報区域がわかりにくい。 ・ 安否確認程度しか対応できなかった / ・ 津波被害の対応を CM にて確認した。 ・ 独居者の対応。 / ・ 訪問時など避難する判断の難しさ / ・ 過敏に反応しすぎ ・ 在宅で寝たきりの方の避難？夫は妻を残して避難しないとの返事。